



がんば

島原市立第三小学校
育友会報
発行
広報部

【第108号】

大分県

豊後高田市立河内小学校と



兄弟校締結！



8月21日・河内小学校にて調印式に臨んだ本校児童代表

兄弟校締結

校長

伊藤 富幸

このたび、多くの方々のご尽力により、島原市立第三小学校と豊後高田市立河内小学校が兄弟校の盟約を締結いたしました。

この兄弟校締結は、小中学生に大きな夢と希望を持たせ、活力を



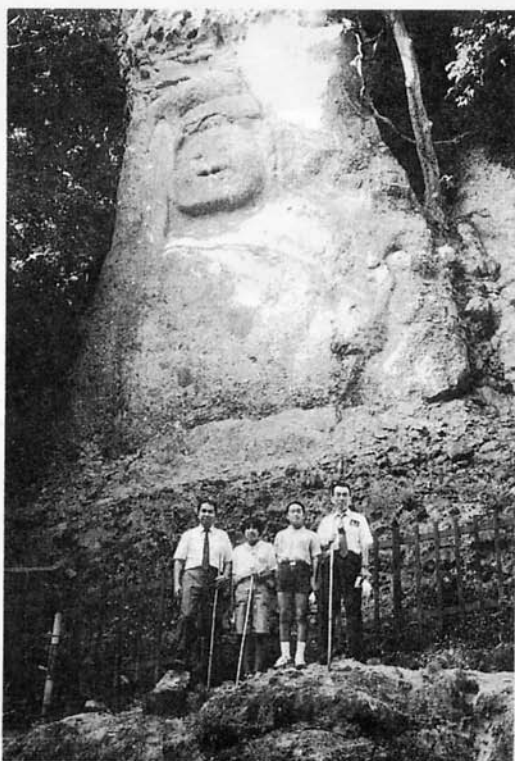
生む豊かな親善交流を通して、二十一世紀を担う青少年の育成をめざすためになされたものです。

締結は、まず、八月八日・九日に河内小学校から校長先生、育友会副会長さん、児童代表二名が第三小学校を親善訪問され、本校体育館で締結調印式を行いました。

続いて八月二十日・二十一日に第三小学校から校長、育友会長、児童代表二名が河内小学校を親善訪問し、河内小学校体育館で全校児童・教職員の見守る前で締結文に調印し、声高らかに朗読して盟約を結び兄弟校が誕生しました。

さて、豊後高田市は、大分県国東半島の西の付け根に位置する人口二万一千の都市です。農業が盛んで白ネギ、豊後牛、しいたけ等の特産品で有名です。また、「ほとけの里」と呼ばれている同市は古い歴史を持ち、国宝の富貴寺をはじめ、磨崖仏等優れた重要文化財が数多く残っています。

両市の結びつきは、今から三百年前、宝文九年（一六六九年）に松平忠房公が丹波国（現在の京都府）から移封され、豊前豊後の三万石を兼領することになったのがきっかけです。以来、明治四年



熊野磨崖仏（豊後高田市）

の廃藩置県になるまでの約二百年間、豊後高田は島原藩の支藩でした。

こうしたつながりから、共に手を取り合って新しい飛躍を求めようと、昭和四十四年に兄弟都市の契りが結ばれています。今回は、兄弟都市提携二十周年、また、島原市制五十周年を記念して両市の小中学校が互いに兄弟校の締結をした次第で、まことに意義深いことです。

河内小学校は、分校を含めて児童数百九十名余の学校ですが、豊かな心と自ら学ぶ力を育むために、すべての教育活動を通じて心の触

れ合いを深めながら、一人ひとりを大切にして活気みなぎる「河内っ子」を育成するという教育目標のもと、藤本校長先生以下全教職員が一丸となって教育に当たっておられます。今回の親善訪問にあたり、地域や育友会の皆様の心温まるご歓待、全校児童の明るくあたたかいさつ、元気発らつたる生活態度、輝く瞳等印象的でした。

締結を機会に、両校及び育友会が兄弟校としての契りを固くし、文化やスポーツ、各種の行事の交流を通して親善を深め、お互いに学び合い求め合って向上発展していくことを願っています。

教養部視察

研修について

教養部長

平野義信

残暑も厳しく、また、雨も心配された。去る九月十二日、北九州コカ・コーラ（KK）が企画募集していました「さわやか工場見学会と太宰府文学散歩へのお誘い」を視察研修会に替えて実施しましたところ、育友会長、校長先生始め多数の方々にご参加して頂き、有意義に終えることが出来ましたことを厚くお礼申し上げます。

まず、工場見学ではこの企画のメインであります。炭酸飲料水を正しく認識していただくための説明があり、結論を申しますと抽象的な意見が飛び交っています。成分等は缶の側面に明記してありますので正しく理解して下さいとのことでありました。

私個人の感想としましては、適度に飲む分は支障はなく、また、一般によく言われる歯への障害はむしろ他に原因があるように感じているところです。

また、生産の方では、一つの商

品を一分間に八百本製造しているのを間近に見て、今更に我が国のオートメーション化や生産力に感心させられた思いでした。

次に、歴史への散歩ですが、私もこの頃歴史に少し興味を持ってるところですが、今回、太宰府政庁跡、観世音寺、明光寺、天満宮等の国宝級、或いは重要文化財に接し、あらためて先人の方々の苦勞や偉大さを感じ入り、少し歴史の中に浸った思いでありました。

帰りは、車酔いの方もなく、カラオケも休む暇もないほど歌も続



出し、盛会の内に帰着しました。業務とはいえ、終始お世話いただきましたコカ・コーラ（KK）島原営業所の皆様、有難うございました。

子育ては

父ちゃん・母ちゃん

二人の仕事

今年も夏休み期間中に、恒例の町内訪問が実施されました。広報部長の私も、取材を兼ねて二会場へ参加いたしました。町内訪問そのものの在り方について、毎年同じ発言の繰り返しばかりで発展性が無い、「同じ顔触ればかりで面白くない」などの学校内外の声を頭の中にインプットしての参加でした。すると、いるわいるわ、予想通りの女性軍団、周りを見渡し男性を探すと、校長先生や教頭先生だけ、心細い思いの中で話し合いの始まりです。

初めのうちは遠慮ぎみの話し合いも、時が進むにつれ本音もチラホラ、中でも、「学校行事、育友会行事へ積極的に参加する事で、我が子の非行の芽を小さい内に知る

事ができ、その後の成長への手助けとなり、間違った方向へ進ませずにすんだ」と言うお母さんの話には説得力があり、勉強させられたような気がしました。

毎年同じ顔触れ、同じ話し合いでも積極的に参加する事で、子育ての小さなポイントが見つかるものです。学校内に目を向けても、学級部会、代議員会と各種寄り合いがあります。できる事なら無い方がよい、係を担当しない方がよいとお考えのあなた、少し発想を変えて、我が子の為にとアンテナの向きを変えてみましょう。思わぬ所に子育ての秘訣やポイントがありそうですよ。

自信を失いかけた時、語り合い、振り返ってみるだけでも安心するものです。町内訪問を初め、各種行事のものもの良し悪しを論議するより、大いに参加し、更に良い行事に発展させ改革させる事の方が大切ではないかと思われました。最後に一言、「三小の父ちゃんたち、育友会は母ちゃんの仕事、女の仕事」と割り切っていませんか。子育ては「父ちゃん・母ちゃん二人の仕事」、恥ずかしがらずにもつと我が子の為に育友会行事に参加しましょう。（広報部 古川）



「カ！いっぱいがんばります」

たのしかった うんどうかい

一ねんくみ

いとう ゆり

わたしは、「ありさん、がんばれが、一ばんおもしろかったです。まっているとき、しんぞうがどきどきしました。だいぶんよくなつてから、大だまがばすされました。わたしは、りようてでしつかりころがしました。でも、おかあさんのまえでじぶんがころんでしまいました。一いにはなれなかった

けど、「さいごまでなかないで、いけばいいよ」と、おかあさんからいわれました。だから、がんばってさいごまでいきました。すこしいたかったけれど、がまんしました。三いになつただけでも、とってもうれしかったです。

おかあさんやおとうさんが「よくがんばったね」といってくれたので、うれしかったです。そのときのうれしさを、いまでもわすれません。

とつてもとつても、たのしいうんどうかいをつくらうとして、ほんとうにたのしいうんどうかいができました。

運動会の思い出

六年二組

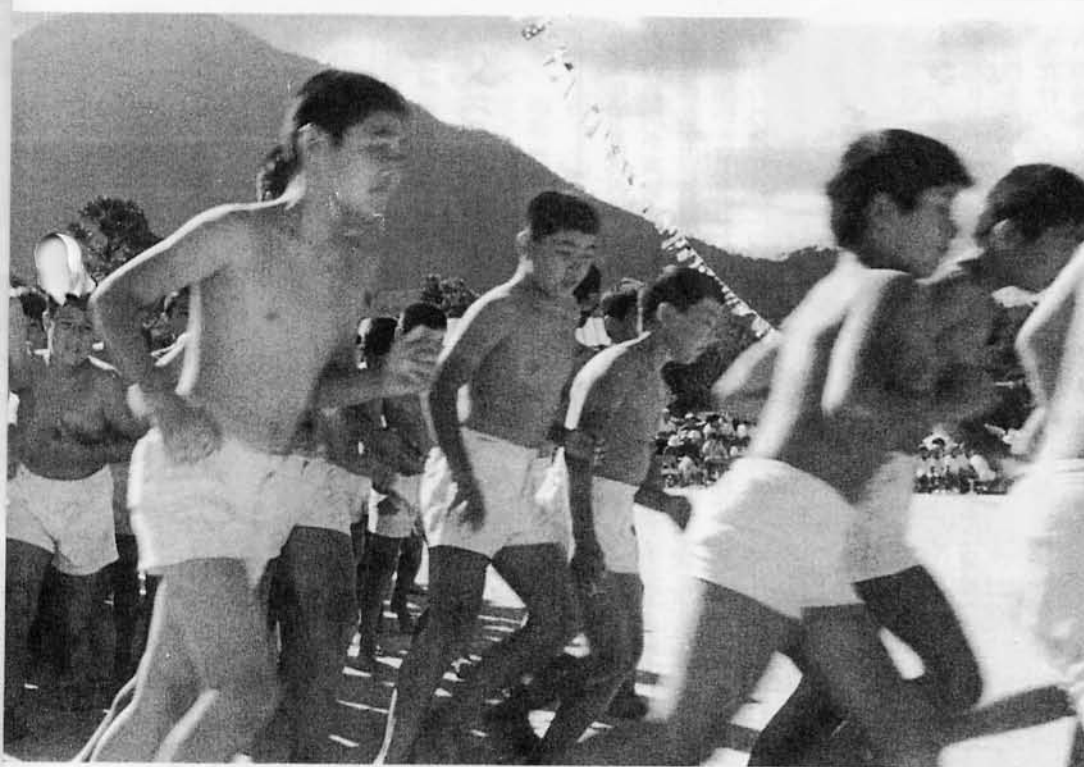
井手 宏 暢

組体操は五年生の時に一度していたので、だいぶ楽だった。「背面倒立」からメインの「ベルリンのかべ」まで作るのに、予行練習を含め十五日間かかった。その間、何回も先生からおこられたりしたが、みんなががんばった。

当日は、稲栄先生のピーと言う笛の合図で「ヤツ」のかけ声により、練習どおりいろいろな形を作っ

た。最後の「ベルリンのかべ」では、僕は体が大きいので、十五人ピラミッドの一番下の真ん中となり、上には十人あまりが乗っていて、「重か〜」という感じだった。

大きな声で「ヤツ」と言ってポーズを決め、くずして体操を終えた。「やったあ」という気持ちで、最後の運動会の良い思い出ができた。



調 和 ！

思い出に残る 秋の大運動会

六年二組
吉岡 美智子

九月三十日にあった運動会、私達六年生は、小学校最後の運動会でした。私は、思い出に残るような運動会にしようと思いました。

私は、自分が一番がんばったなと思うことは、応援合戦です。赤組みんな、自分達が一生懸命練習してきた応援は、立派だと思います。

最後の閉会式の時の得点は、赤組は二番でした。優勝できなくて悔しいなと思いました。でも、みんなががんばったので、それでいいと思います。

今年の運動会は、小学校では最後の運動会だったので、とても思い出に残るような運動会にしようと思います。



だるまさんが ころんだ

心使いの忘れ物

子ども達が力いっぱい頑張る姿に、感動で胸いっぱいになった今年の運動会。でも、お父さん・お母さん、何か忘れ物をしませんでしたか。運動会終了後の公園のくずかごは、ビールの空ビン、カン、弁当くずであふれていました。子ども達はこれを消却炉に運びました。いったい子どもの目には、どのように写ったのでしょうか。たしかに大盛会に終わった運動会でも、大人ひとりひとりのちよっとした心がけが欠けていた事を、とても残念に思います。「ごみの持ち帰りは、あたりまえ」という事に、



力！ 躍動！

今意識を変えてみませんか。

「ゴミは散らさない」、
「ゴミの持ち帰り」は人間としてのモラルの問題ですね。大人として、親として口で言うだけでなく、態度や

行動でしっかり示していきたいものだと思います。

「この文は、一般の父兄の方から広報部に投書されたものです。」

がんばってます

楽しかった

とうきび祭り

―南下川尻子供クラブ―

日頃よりユニークな子供クラブ活動を繰りひろげている南下川尻子供クラブが夏休みの思い出に、校長先生や町内担当の先生をゲストにとうきび祭りを開催しました。これは、町内の米田さんの御好意によりお借りした農地を「南下川尻子供クラブ百姓体験農場」と



名付け、子供たちの子作料は無料として開放し、春よりトウモロコシ作りに精を出しました。近所のおじいちゃん達の協力を受け、種まきまではスムーズに行きましたが、牛の堆肥の前には、こまり顔「くさかく」、「手でまかにやんとく」と言いつつも何とか種まきも終り、少しずつ大きく育つ芽を楽しみに待ちつつ、夏休みの収穫を迎えました。

とうきび祭り当日は、お母さん方の協力によるおでん、かき氷、ヨーヨー等の夜店まで出店し、中には町内会長のケン玉ショーまで飛び出しての楽しい一夜を過ごしました。

さっそく、秋の収穫へ向けてじやがいも作りも始まり、今度は秋のカレー祭りが楽しみに待たれます。自然に触れ合う事で親子の絆を深める南下川尻子供クラブ、次は何の企画が出てくるのやら楽しみです。

十月十四日、恒例の育友会町内対抗バレーボール大会が開催され、熱戦が繰りひろげられました。各クラスの優勝チームは次のとおりです。



Bクラス 優勝 新山西



Aクラス 優勝 三小職員A



Cクラス 優勝 南下川尻

編集後記

今までになげなく繰り返してきた学校行事も、今年度は違いました。新入生みたいに、全てが新鮮です。驚いたり、関心したりすごく勉強になります。ちよつと忙しくはありますが、「がんば」に参加している実感はヒシヒシ。少人数ではありますが、アットホーム的な広報部の中で楽しく「がんば」と関わっていただけらいいなと思っています。

(小山)